

- 問1 古墳時代の日本（倭）が朝鮮半島や中国大陸の諸王朝と活発に交流していたことを示す証拠について、群馬県の綿貫観音山古墳などの出土品から読み取れる共通点として最も適切なものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
- 朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点
 - 遣隋使が派遣されるまで大陸との交流は完全に途絶えており、仏教に関する文物のみが特例として見られる点
 - 江戸時代の鎖国政策の影響により、大陸由来の文物が一切見られず、日本独自の土器のみが発達している点
 - 縄文時代以来の伝統である大型の磨製石斧や、日本列島固有の黒曜石製品が大量に出土する点
- 問2 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト政権（ヤマト王権）の支配者の呼び名が刻まれています。この鉄剣の銘文に見られる、当時の最高権力者の称号として正しいものを選びなさい。（2016年 高知県公立入試 類似）
- 天皇
 - 関白
 - 皇帝
 - 大王
- 問3 埼玉県の稲荷山古墳から見つかった「ワカタケル大王」の銘文がある鉄剣と、熊本県の江田船山古墳から見つかった同様の銘文がある鉄刀は、5世紀後半の日本列島の政治状況についてどのようなことを物語っていますか。最も適切な説明を選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）
- 日本列島は各地の豪族によって完全に分割統治されており、中央集権的な組織は存在しなかったこと
 - 大陸との交易はすべて関東地方の豪族が独占しており、鉄器の製造技術を独占していたこと
 - ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと
 - 関東地方と九州地方の有力な豪族が連合し、近畿地方のヤマト政権と対立していたこと
- 問4 熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀と、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、いずれも「ワカタケル大王」の名が刻まれていました。この事実から推測される、5世紀ごろの大和政権の勢力範囲に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- 大和政権の勢力は、近畿地方とその周辺の非常に狭い範囲に限定されていた。
 - 大和政権の勢力は、東北地方から九州南部に至る日本列島のほぼ全域を支配していた。
 - 大和政権の勢力は、大陸の影響を強く受けていた九州地方のみに限定されていた。
 - 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。
- 問5 世界の歴史において、7世紀初頭にムハンマドがイスラム教を創始した時期、日本において行われていた政治体制や社会状況として正しいものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
- 平城京が建設され、律令に基づいた中央集権的な国家体制が整備されていた。
 - 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かり、邪馬台国が30余りの国を従えていた。
 - 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。
 - 北九州の「倭の奴国の王」が、後漢の皇帝から金印を授かっていた。
- 問6 3世紀ごろ、倭の女王である卑弥呼が使いを送った中国の国と、当時その国と勢力を争っていた国の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2016年 和歌山県公立入試 類似）
- 魏 ―― 呉・蜀
 - 唐 ―― 吐蕃・新羅
 - 隋 ―― 陳・北周
 - 秦 ―― 楚・斉
- 問7 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。
 - 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。
 - 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。
 - 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。
- 問8 5世紀初めから約1世紀の間にわたって行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）
- 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した
 - 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている
 - 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている
 - 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った
- 問9 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）
- 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度
 - 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
 - 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術
 - 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み
- 問10 5世紀の日本各地における古墳の分布状況を見ると、近畿地方で誕生した特定の形式の古墳が、九州から東北地方までの広い範囲に築造されていることが分かります。この歴史的背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
- 狩猟・採集の生活から、竪穴住居に住む定住生活へと変化した
 - 仏教の影響により、全国各地で国分寺が建立されるようになった
 - 墨田永年私財法の施行により、地方の有力者が荘園を形成した
 - 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった
- 問11 5世紀後半の大和政権において、最高権力者が名乗った称号は何ですか。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣に、「獲加多支鹵」という人名に続けて刻まれている名称を答えなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）
- 天皇
 - 執権
 - 大王
 - 將軍
- 問12 古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
- 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる
 - 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた
 - 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である
 - 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された
- 問13 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬県公立入試 類似）
- 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
 - 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している
 - 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
 - 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している